

ごあいさつ

人は有名な山に憧れて登り、様子を伝え聞いて更に多くの登山者が同じ山に訪問します。落ちているティッシュの多さで訪問者の数が分かるのも残念なことですが、春が戻るたびに繰返される光景です。

もう9年前になりますが、試験的にというか興味があって、マイナーな山ばかりを紹介したことがありました。トイレ問題は、登山者が集中する山の問題として明らかですから、登山対象を多くの山に分散することで新たな山の楽しみを見つけたり、インパクトを軽減できる方法となるか試行したことがあります。名前のない沢、地味であるけれども趣のある静かなルートばかりを、夏冬とおして案内誌に紹介し続けました。集中を防ぐのに加えて「自分の百名山」を見つけて欲しいと願ったのがきっかけでした。マイナーな山を多く盛り込み、有名な山は全体の1割として、どこの山に人は行きたがるか通年で取り組んでみたのですが、結果は散々で、マイナーな山の問い合わせは数件でした。その中には、・・・「もしもし、この山どこの山塊？ん、あーそうかい、で、どっから登るの？」・・・場所の特定と難易度の見当をつけたいのか、結局探検登山の話題提供におわりました。見知らぬ山の名前に興味を持ってくれるのは、そんな少数派のマニアばかりだったのです。一方で有名な山には初心者もベテランもなく応募があり、その数は圧倒的で、予想はしていましたが同時に驚きを感じました。マイナーな山が1だとしたら、有名な山は1000の希望が集まると言ってもおかしくない状況でした。

海外で、日本人はどうしてここに訪れるのかと地元の住人が話しかけてきたことがあります。「世界の人を訪れるが、日本人はとても多いのだ」と彼は言い、他にもそのような所があるかと聞くと、日本国内で耳に馴染んだ地域が2～3あがりました。レンジャーの彼にカメラをむけたら「チーズ」といってニッコリ笑います。「このチーズって意味は何か？」とまた聞かれ、さすがに真面目に答える気にもなれず、深くお礼を告げてサッサと別れました、思い出すたびについ苦笑してしまうできごとです。

世界中に集中度が特別なところはいくらでもあるのですが、日本人は団体でドバツとくるので目立ちます。もし英語が話せたら、個人旅行ができるようになり世界の各地に散らばって、同じ地域に日本人ばかりが目立つこともないのかと考えてみたりしますが、さてあなたはどう思いますか？

国内の登山者の集中は、誰もが登りたい百名山の問題ですが、どのような熱気が存在するのか、ある研究者にツアーにお付き合いいただいたことがありました。終了後感想を聞くと「登りたい熱気が、これほどだとは思わなかった。中高年の皆さんは活き活きとしていますね」と感想をいただきました。「中高年の夢、手に入る希望は山頂到達」更に同行する参加者の助け合いも、連携プレーで教えあい学びあいが存在し、俄か仲間が生まれ、話が弾んで楽しそうです。遭難事故がおきる度に協調性のない参加者として非難されるのは、協調がないから遭難した所以のグループだからです。助け合えるグループは「トイレティ

ッシュを持ち帰ろうネ」とごく自然に呼びかけがお互いにされ、てらいもなく行動となっています。気持ちを同じくする山の仲間は楽しく、山の醍醐味の大事なひとつでしょう。

人が集中するところは、変化が早いですから何らかの手当てが必要になります。保護しなければ、自然景観はいつの間にか変化し、魅力の薄いものとなる事例は昔も今も数えればきりがありません。感動を受けた自然はいつまでも残る大切な思い出、次に訪問する人もまた心を癒す美しい景観として引き継ぐことを誰しも望んでいるのでしょうか。しかし自分の残した僅かなインパクトが、脆弱な自然の破壊を招くと思いついている人は少ないのかもしれない。自分が山に入ると、自然は壊れるのだと仮に考えてみましょう。白状しますが、だからといって、私なら登らずにはられない、スリルや安らぎを求めて山に向かうと思います。

では多くの訪問者が押し寄せる地域では、どんな対策が施されたいのか。つい最近のことですが「自分が登ることを控えたところで、別の誰かが登るのだ」、「公平に登れるように決めてくれないか？」と言われた登山者と大手ツアー業者がいました。整理券を配布したらいいと言いたげだったのですが、規制を自ら課してくださいと要求されるのも奇妙な話だと思いつながら、いずれ誰かがなんらかの形で実行しなければならないのだとしたら、ひとつの手段として柔軟に取り組めるものであって欲しいと考えます。1度決定されると、何があってもルールどおりの従来の固いものではなく、調子を見ながら作り変えができ、話し合いの効果が管理に生かされるものであって欲しいのです。今までに集中を緩和する策はあったでしょうか。実は、はじめから利用を考え準備されたものがないから、考え始めたのが現状です。これから具体的になる方策があるとしたら、行政側で整備と利用計画の“柔軟に対応できる見直し”と、地元に関わる方々の将来を見据えた理解と行動が重要になるでしょう。

2003年第4回フォーラムでは国立公園全体を利用に応じたレベル分けから、トイレ問題の解決が図られるか考えました。このたび5回のフォーラムは、従来のパネラーの演壇を会場参加者と同じ高さにして、意見交流しやすく設定し、市民、住人、地域の意見を自由に語っていただきたく、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。そして登山者と地域の声がひとつになり、協働により具体的な行動となることを期待します。

平成 16 年 2 月 7 日

山のトイレを考える会
代表 横須賀邦子